Note

診察室での質問には、一つひとつに大切な意味があります

病院の問診で、「この質問は病気と関係があるのだろうか」と思ったことはありませんか？医師が生活背景などを詳しく伺うのは、医学的な根拠に基づき、一人ひとりに合った診断や治療につなげるためです。

□ どんなお仕事をされていますか？

理由 デスクワークか肉体労働かによって身体への負担は異なります。症状の原因を考えたり、無理のない生活指導を行ったりするための大切な情報です。

□ いつから症状がありますか？

理由 症状が始まった時期や、「朝起きた時」「動いた時」など症状が現れるタイミングは、病気の特定につながります。経過観察でよいのか、詳しい検査が必要なのかを判断する重要な手がかりになります。

□ お食事はどなたが作られていますか？

理由 ご自身で作られているのか、外食が多いのかによって、食事療法の提案は変わります。必要に応じて、ご家族にも一緒に栄養指導を受けていただくことがあります。

□ 最近の生活習慣に変化はありましたか？（血液検査の結果を見て）

理由 中性脂肪や血糖値などの検査結果は、一時的な食生活や運動量の変化が影響することがあります。旅行や外食が続いたり、運動不足になったりといった生活の変化を伺うことで、生活改善を優先するのか、お薬の調整が必要なのかを適切に判断することができます。

広報誌名「めだか」は、当院の中庭でみんなに愛でられ育つめだかのように、親しんでいただきたいという思いから名付けられました。

めだか 101 号（2026年10月） 年3回（2月、5月、10月）発行

表紙絵：「楽しい季節」坂尾 有美

発行責任者：加藤 真二　　発行：医療法人 三九会
〒471-0035 愛知県豊田市小坂町７丁目80番地
TEL 0565-32-0282（代） FAX 0565-35-2570

外来診療のご案内
診療予約専用 ☎0565-35-3960（サンクロウ）

三九朗病院 モバイルサイト

さんくろうニュース
めだか
MEDAKA
10月号
2026年（No.101）



巻頭 患者満足度調査

Services Information 「ウェルビーイング」の実現を目指して
～地域とつながり、笑顔が続く病院～

医療法人三九会

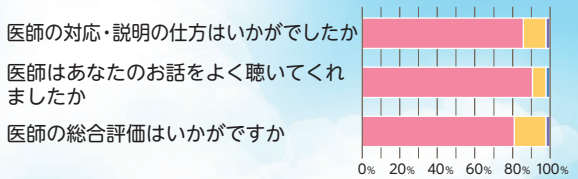
患者満足度調査

皆さまの声を、より安心で 快適な入院環境づくりに

医療法人三九会では、患者さまの声を反映し、より安心で快適な入院・療養環境を提供するため、「退院時アンケート」を継続して実施しています。
2026年4月～6月に実施したアンケート結果をご紹介します。

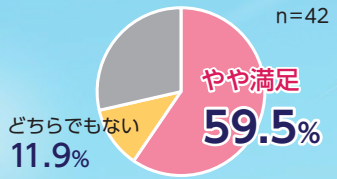
医師の対応（三九朗病院）

n=42



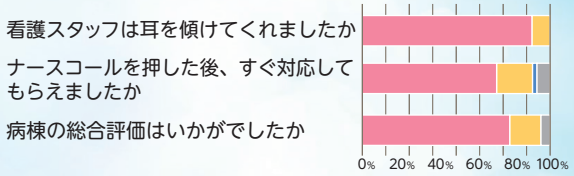
全体的な満足度（三九朗病院）

n=42



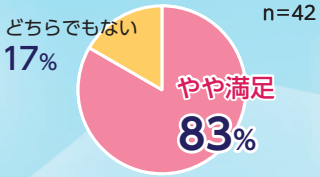
病棟での対応（三九朗病院）

n=42



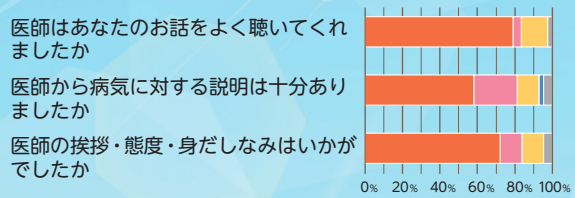
リハビリの成果（三九朗病院）

n=42



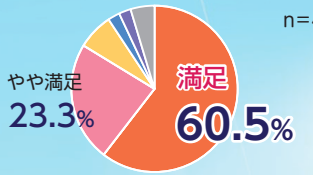
医師の対応（三九朗東リハビリテーション病院）

n=43



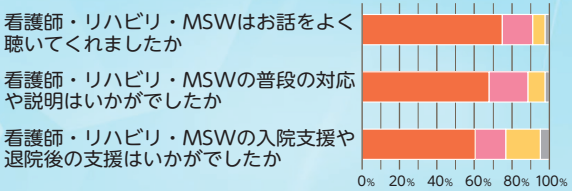
職員の対応や施設の環境面、全体に対して（三九朗東リハビリテーション病院）

n=43

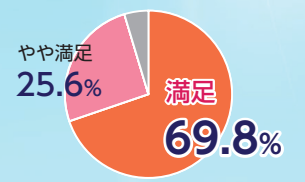


病棟での対応（三九朗東リハビリテーション病院）

n=43



リハビリの成果（三九朗東リハビリテーション病院）



満足　やや満足　どちらでもない　やや不満　不満　未記載（わからない）

お褒めのことば

温かい治療や看護に感謝します。精一杯支えていただき、「ここに入院して良かった」と思える日がたくさんありました。

いつもスタッフの皆様が気持ちの良い対応をしてくださり、楽しい入院生活が送れました。

リハビリで入院し、希望に近い所まで歩けるようになり満足しています。しばらく通院でお世話になりますが、よろしくお願いいたします。

やさしい方ばかりで、「冷たいお茶がほしい」と言うとすぐに持ってきてもらえてうれしかったです。

みんなよくしてくれました。食事は、主食も副食も量が多いと感じましたが、味は良かったです。

毎日楽しく過ごせました。リハビリスタッフの皆さんも親切でした。

ご意見・ご要望

大部屋での生活音が気になる。ワゴンを移動する際の音や、他の患者さんの話し声が気になりました。また、スタッフが患者さんを呼ぶ際は、周囲への配慮をお願いしたいです。

ご意見ありがとうございます。職員も歩行時の足音や会話の声量に注意いたします。皆さまもイヤホンの着用や話し声の大きさなどお互いへの配慮をお願い申し上げます。

ナースコールの対応が遅いと感じることが多々あった。

ご意見をありがとうございます。ケアや介助の最中でお時間をいただく場合もございますが、職員に共有し、少しでも迅速な対応とお待たせする際の声かけを徹底してまいります。

皆さまからの温かいお言葉は職員の励みとして、また、貴重なご　意見はこれからの安心で快適な病院づくりにつなげてまいります。

「ウェルビーイング」の実現を目指して

～地域とつながり、笑顔が続く病院～

3ヵ年ワンチームプロジェクト

2025年4月に一新した当院の「3ヵ年計画」は、この10月でちょうど折り返し地点を迎えました。今回は、計画達成に向けて活動している多職種による「ワンチームプロジェクト」の取り組みをご報告します。

医療やケアで支える患者さんのウェルビーイング

最近、テレビなどでもよく耳にする「ウェルビーイング(Well-being)」とは、単に「病気ではない」という状態に留まらず、心も体も、そして社会的なつながりも満たされ、自分らしく幸せに生きられる状態を意味します。医療は病気を治すだけでなく、その人らしい生活を支え、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援することが、ますます重要になっています。

「ワンチームプロジェクト」は、まさにこの理念を日々の医療やケアで体現するための取り組みです。医師・看護師・リハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・事務職員など、多職種が一丸となり、職種の垣根を越えて意見を出し合うことで、これまでにない相乗効果が生まれます。それぞれの専門性を持ち寄り、患者さんやご家族にとって「もっと良い方法はないか」を考え続けることが、より質の高い医療やケアにつながっています。

3ヵ年計画（2025年4月～2028年3月）

理念実現のために三九会が**永続的に発展する**ための取り組み

1. 地域リハビリテーションの機軸となり、人と社会が Well-being を目指します。
2. 院内外の垣根を越えて**多職種が協力**し、助け合う組織を醸成します。
3. 患者さん・利用者さん・ご家族とその地域の**希望や不安に寄り添い**、共に歩みます。

理念：「ここに来て良かった」と思ってもらえる施設でありたい

右図：厚生労働省の資料をもとに、3ヵ年ワンチームプロジェクトチームが作成。院内新聞『3ヵ年ワンチーム PJ News』から抜粋。



多職種の強みを生かした体制でサポート

目指すのは、「この地域に暮らせて良かった」「この病院に相談して良かった」と患者さんやご家族に思っていただける病院、環境づくりです。外来から在宅支援に至るまで、多職種の強みを生かした体制で、地域の皆さまのウェルビーイングに寄り添い、共に歩んでまいります。また、この取り組みは患者さんだけでなく、職員一人ひとりがやりがいを持って働き続けられる職場づくりにもつながると考えています。

次号からは、プロジェクトに参加する各チームの具体的な取り組みや目標を順番に紹介していきます。それぞれのチームの活動を通して、当院が目指す「ワンチーム」の姿をぜひご覧ください。

ナースの部屋　患者さんの笑顔のために

学びを未来の看護の力へ

学びを継続し、共に成長する環境づくり

看護部長　加納（かのう） 明美（あけみ）

患者さんに安心して入院生活を送っていただくために、私たちは日々学びを重ねています。その学びは、一人ひとりの知識や技術を高めるだけでなく、仲間と共有し、現場で生かすことでより良い看護につながっていきます。今回は、スタッフの研修参加や私自身の経験を通して感じたことをご紹介します。

一歩進んだ排尿ケアを目指して

排尿ケアは、患者さんの尊厳を守り、自立した生活を支えるうえで重要な役割を担っています。今年度、当法人では、患者さんの排尿に関する困りごとを減らし、できることを生かしながら、その人らしい生活につなげていくためのケアを学ぶ研修に、６名の職員が参加しました。研修では、最新の知識や多職種で連携するための視点を学びました。この学びを院内に共有し、日々のケアに生かしていくことで、より質の高い支援につなげていきたいと考えています。

研修での知識を共有し、現場で生かす

また、私自身、このたび４年間携わってきた看護協会での活動を終えました。他施設の看護職や多くの関係者と交流する中で、さまざまな取り組みや考え方に触れ、自院を客観的に見つめ直す貴重な機会となりました。改めて感じたのは、質の高い医療や看護は、一人の力ではなく、職員一人ひとりの学びとチームワークによって支えられているということです。

医療を取り巻く環境は日々変化しています。その変化に対応し、患者さんにより良い医療･看護を提供し続けるためには、職員が継続して学び、互いに支え合いながら成長できる環境づくりが欠かせません。

当法人でも、研修への参加だけでなく、院内での知識共有や人材育成を大切にし、「学んで終わり」ではなく「現場で生かす」ことを意識した取り組みを進めていきます。一人ひとりの成長がチームの力となり、その力が患者さんへのより良いケアにつながるよう、これからも職員全員で学び続ける病院を目指していきたいと思います。



新しい仲間を迎え、共に歩む未来



2026年7月に2名、9月に２名の特定技能生を迎え、法人として6名になりました。介護福祉士を目指し、日本語や介護の知識・技術を学びながら、それぞれの現場で経験を積んでいきます。皆さん、思いやりがあり、とても穏やかな方たちです。お互いの文化を尊重しながら学び合い、共に成長していきたいと思います。外国人スタッフを見かけたら、声をかけてください。大きな励みになると思います。

No. 64

リハビリの現場から

患者さんの声をリハビリテーションへつなげる

退院後電話調査の取り組み

リハビリテーション部　課長　中村 嘉貴

回復期リハビリテーション病棟からご自宅へ退院された方に、電話による聞き取りをするという新たな試みを開始しました。お聞きする内容は、入院生活やリハビリ訓練でできるようになった身の回りの動作がご自宅でも継続してできているか、食事や服薬など健康面で気になることがあるか、などです。退院１週間後には担当看護師が、１か月後には担当療法士がお電話で様子を伺っています。

担当療法士が聞き取った退院患者さんの様子をご紹介します。

- 退院直後は日常生活に慣れるのに精いっぱいだったが、退院後の目標だった「フィットネスジムにまた通いたい」をかなえるため、**「そろそろジムに行くことにする」という、うれしそうな声が聞けた。**
- 退院後の生活は、入院中に想定していた生活とは違っていたが、家族や退院後に**サポートしてくれる方と一緒に新しい生活スタイルを考え、頑張っている。**



退院後、日常生活に戻り、元気に過ごされている様子を聞くことは、スタッフにとって励みになりますし、環境の違いに伴う工夫点などを伺うことは、貴重な学びになります。

困っていることがあれば、支援の見直しや改善に向けたサポートをいたします。いただいた皆さまの声を生かし、より質の高いリハビリテーションの提供に努めてまいります。

負担のかからない介助方法 & 家でできるリハビリ No. 36

退院後の暮らしに寄り添い、安心を支える

リハビリスタッフの「家族指導」の取り組み

理学療法士　内田 奏太・服部 大輝

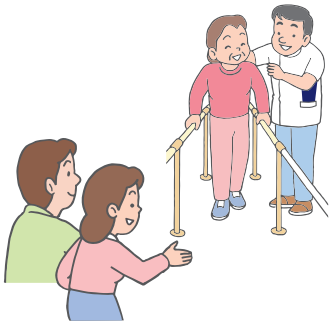
回復期リハビリテーション病棟では、退院後に安心して生活できるよう、リハビリを行っています。私たちが大切にしている取り組みの一つが「家族指導」です。

ご自宅の環境はバリアフリーが整った病院とは異なります。家族指導では、実際の生活場面を想定し、ベッドからの立ち上がりや安全な歩行サポート、お食事の工夫など、ご自宅の間取りや暮らしに合わせた具体的なサポート方法をご家族へ丁寧にお伝えしています。

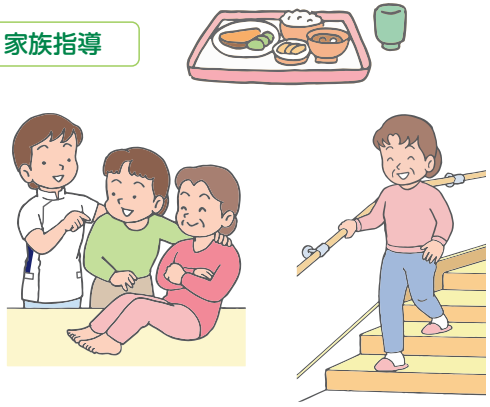
また、「退院後の介護が不安」と感じるご家族も少なくありません。入院中から実際に介助を体験していただき、不安を一つひとつ安心へ変えられるよう支援しています。

ご家族にもリハビリに参加していただき、退院後も住み慣れたご自宅での生活を安全に続けられるよう、多職種と連携し、真心をこめてサポートいたします。

リハビリの見学



家族指導



NEW

患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

地域連携室を開設しました

地域連携室　担当　杉山（すぎやま） まなみ

当院は、回復期リハビリテーション病院として、野見山地区に開院して４年目を迎え、新たに地域連携室を開設しました。

その目的は、患者さん一人ひとりの回復を支えるともに、住み慣れた地域で安心して生活を続けられるように支援することです。そのためには、地域の医療機関や介護・福祉事業所の皆さまとの日頃からの連携が欠かせません。地域連携室では、後方連携の充実に力を入れ、急性期病院からの円滑な受け入れや、退院後を見据えた切れ目のない支援体制づくりを進めてまいります。

歩み始めたばかりの部署ではありますが、皆さまからいただくご意見を大切にしながら、相談しやすく、身近に感じていただける窓口へと育てていきたいと考えています。

入退院や療養生活に関することなど、気になることがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



お問い合わせ・ご相談

三九朗東リハビリテーション病院
連携室（担当：杉山）
☎0565-47-0395（代）

座ってできる！ 簡単ストレッチ

酷暑も落ち着き、行楽シーズンがやってきました。お出かけを楽しむ機会が増えると思いますが、移動中は長時間座るなど同じ姿勢で身体が固まりがちに。今回はちょっとした時間を使い、座ったままできるストレッチを紹介します。

太もも前



足首をつかんで軽く上体を前に。
足は後ろにひく。

太もも裏



膝を伸ばした状態で
背中を丸めずに身体を前に倒す。

つま先を
天井に向けると
ふくらはぎに
よく効きます！



ふくらはぎ

お尻



くるぶしを
膝上あたりに置き、
身体を前に倒す。

腰



足を交差して
反対の手を膝に当て、
斜め後ろを向きひねる。

肩甲骨周り



手を前で組み目線は
おへそを見て背中を丸める。

15秒～20秒 程度　無理に伸ばし過ぎないように行いましょう

見学・無料体験受付中！　スタジオプログラムの体験もできます!!
●メディカルフィットネス SHIN-SHIN とよた（三九朗病院内）　☎0565-34-6272
【体験受付】10：00～19：00（休館日：日曜日）　【営業時間】9：00～21：00（土・祝20：00まで）